法政大学学術機関リポジトリ
HOSEI UNIVERSITY REPOSITORY

PDF issue: 2024-12-26

就職までの過程

入江，宜孝

(出版者 / Publisher)
法政大学国文学会
(雑誌名 / Journal or Publication Title)
日本文學誌要
(巻 / Volume)
53
(開始ページ / Start Page)
82
(終了ページ / End Page)
82
(発行年 / Year)
1996-03-24
(URL)
https://doi.org/10.15002/00019883

就職までの過程

入江　宜孝

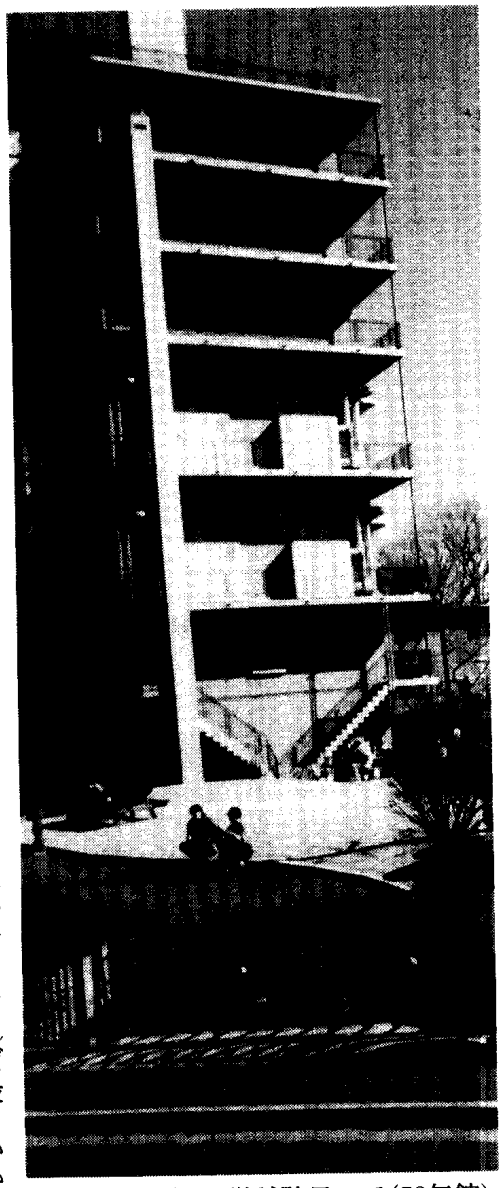
昨年度、法政大学文学部日本文学科を卒業いたしまして、現在国立大学において人事関係の仕事にたずさわっています。

しかしながら、社会人としての生活をはじめたのは、わずか三ヵ月ほど前になります。大学を卒業してから平成七年度の国家公務員試験に最終合格するまでの約半年ほどの時間を、就職浪人というかたちで過ごしました。大学三年である科目を受講して以来、なんらかのかたちで行政にたずさわって仕事をしてゆきたい、と思い公務員を目指しました。しかし、本来就職するはずの年度の公務員試験には、数ヶ所面接試験まで残りましたが、結局採用までいたらず、いろいろな迷いの中、卒業してもう一度公務員試験を受けてみようと、前年同様民間の方は一切活動せず、二度目にしてようやく自分の希望する職業に就くことが出来ました。

経済の変動に伴い、学生の就職が数年前とは比べようもないほど厳しいものになっていますが、私がこのようななか就職活動をするにあたって、常に自分で意識していたことは、試験に合格し採用されるという最終目標を達成するまでの過程、その過程を常に自分なりに考え、大切にしたということです。就職活動は、筆記試験なり面接試験なりを受けて採用されるという終わりのある活動です。長い期間、例えば自分の人生などというような漠然としたものとは違い、ある程度目処の立てやすい数ヶ月の期間を考えればいいわけですから、その間自分が何をすれば最もいいのか決まってくると思います。そして、それをいつも自分なりに見つめてゆく、極端な言い方をすれば、就職活動は採用されるという結果がすべてと言えますが、その結果にいたる過程を大切にすることも重要だと思います。自分自身の精神的な面でかなり違ってくると思います。

ひとりひとり、希望の職種も違えば、就職活動に対する取り組みかたも違うでしょう。当然、採用にいたるまでの過程も異なります。自分自身を見つめ直す良い機会と思って、頑張ってください。ご健闘をお祈りします。

（一九九五年卒・文部省事務官）



'96 2/11(日) 入学試験日にて(58年館)